

# ふれたその手で未来を実感



職場で実際に働くことを通して子どもたちに職業観や将来への展望を養ってもらおうと、小中学生の職場体験学習が全国で実施されています。市内では小中学校12校で職場体験学習が行われ、各事業所で児童生徒がさまざまな仕事にチャレンジしました。

プロから食材の扱いを学ぶ(Kitchen拓・花崎町)

第1章

# 慣れ親しんだ教室を離れ 展開していく無限の可能性

市内では、すべての市立中学校で実施され、小学校においては、今年からモデル校として吾妻小学校、橋賀台小学校の2校でも導入された職場体験学習。

普段の学校生活を離れ、職場でさまざまな仕事を体験することで、子どもたちが何を身に付け、どう成長していくのか。その可能性が模索されています。

## 将来を豊かにする キャリア教育

キャリア教育とは、子どもたちの職業観・勤労観を養い、自らの個性を理解することにより社会に適応する資質を育てる教育のことです。その目的を実現する一つの活動として職場体験学習が注目されています。

現在、職場体験学習は全国の小中学校で実施されており、その実施期間についても、増加する方向で推移しています。

## 社会の一員としての 自覚を通じて

子どもたちが通い慣れた学校を離れ、受け入れ先の事業所で社会の一員として働くことになる職場体験学習。期間中子どもたちは、同僚として働く従業員やお客さんなど、普段の学校生活では接することのない人たちと会話し、人間関係を築いていくことになりました。

職場体験学習の大きな狙いとして、こうした世代や立場の異なる人との接触を通してコミュニケーション能力の向上を図ることが挙げられます。また、さまざまな作業を体験する中で働くことのイメージを明確にし、自分たちの進路や将来について真剣に考えるきっかけとしても、その役割の重要性が指摘されています。

働く場所や体験する仕事はそれぞれ異なりますが、子どもたちは仕事を通じて、普段の学習内容が

社会でどのように生かされているのかを知ることになります。そういった経験から、学校教育の意義を理解し、進路への関心や意欲を高め、学校生活をより有意義なものにするなど、職場体験学習がもたらす効果は多方面に及んでいます。

## 今なぜ 職場体験学習か

昨今、多様化する雇用形態や産業・経済の構造的な変化によって、子どもたちの将来に対する展望は不透明なものになりつつあります。

また、これらの社会情勢が若年層の勤労意識に影響し、ニートやフリーターの増加が大きな問題として取り上げられるようになりました。

こうした状況を背景に、ハローワークにおける若年者を対象とした就業支援策や、企業でのインターンシップ制度の充実

など、若年層の雇用促進に結びつく仕組みづくりが進められており、その一環として職場体験学習がもたらす可能性が模索されています。

仕事を体験する中で、子どもたちは社会人として働く自分たちの将来を垣間見ることになります。そこで見聞きすること一つひとつが、彼らの描こうとする未来図を明確にし、その成長を促すものになっています。

今年度、市内では中学校10校・小学校2校の全12校で職場体験学習を実施。1〜3日の期間中、児童生徒が近隣の事業所で仕事に取り組み、社会への第一歩を踏み出しました。



棚の整理を通して商品の大切さを実感(セブンイレブン)

### 職場体験学習実施校

学校名	実施日	受け入れ事業所数
下総中学校	8月20日～22日	23
大栄中学校	8月28日～30日	42
遠山中学校	10月10日～12日	30
中台中学校	10月24日～25日	34
成田中学校	11月8日・9日	46
玉造中学校	11月14日～16日	49
吾妻中学校	11月21日・22日	26
久住中学校	11月27日・28日	10
豊住中学校	11月29日・30日	8
西中学校	11月29日・30日	65
吾妻小学校	11月21日	9
橋賀台小学校	11月22日	12

## 今年から小学生も 職場体験学習に挑戦

これまで、市内ではすべての中学校で職場体験学習を実施しており、今年も8月から11月にかけて、全10校の市立中学校の生徒が参加しています。また、今年から小学校の職場体験学習も行われ、橋賀台小学校と吾妻小学校の児童が近隣の事業所を訪問。初めて足を踏み入れる職場の様子に目を輝かせながら、それぞれの仕事に取り組みました。

# 将来の自分探し 明確な目標をもって



みんなで現像代を計算(左からソクトバットさん、佐藤光夫さん、佐藤拓磨さん、野崎さん)

中学生くらいになると、おぼろげながら将来の自分をイメージするようになってくることでしょう。まだ具体的な青写真のない子どもにとっては、この職場体験が将来を考えるきっかけになるかもしれません。

職場体験学習を通じて、彼らは、未来予想図を現実にするための第一歩を踏み出すこととなります。

## カメラマンになりたい

「写真屋さんを選んだのは、写真やカメラに興味があったから。将来はプロのカメラマンになりたいです」と熱い思いを語ってくれたのは、ハマダ写真(囲護)で職場体験した野崎賢人さん(大栄中学校2年)。

同じクラスの友達4人組で体験した2日間について「印象に残っているのは、証明写真を撮らせてもらったことです。その道のプロが使っているカメラなので、教



濱田さんから証明写真の撮影法を伝授

えてもらいながら操作したら、いつの間にかピタリ撮れていました」とうれしそうに振り返ってくれました。

普段から、興味をそそられた風景を撮影したりしている野崎さん。今回の職場体験を経て夢への第一歩を確実に力強く踏み出しました。

## チームワークはバッチリ

ハマダ写真での仕事内容は、一眼レフカメラを使用しての野外撮影、現像作業、証明写真撮影、窓口での受け付けなどさまざま。最終日には、濱田さんから「現像作業を任せても大丈夫」と太鼓判を押されるほど上達しました。

同じクラスの4人なのでチームワークはバッチリです。共同作業では、「こうしてみたら」「いや、こちらの方がいいんじゃない」と頭をひねらせ、4人で議論しながら奮闘しました。

職場体験学習はあらかじめ形の

## 子どもたちの交流が楽しみです

大栄中学校の職場体験学習の受け入れを始めたのは4年前。主人の出身が大栄であったのと、子どもたちの教育に少しでも役立てればという思いからでした。

うちでは恒例となった中学生の受け入れですが、受け入れた子の中には、高校生になっても遊びに来てくれる子もいるんですよ。そんな出会いが本当にうれしいです。たくさん子どもたちと交流を持てることを夫婦で毎年楽しみにしています。

実際に写真を撮って現像まで仕上げる作業を終えると、みんな達成感を持ってくれるようです。夢中になり帰る時間を忘れてしまう子どもたちも。子どもたちの仕事に対する意識を少しでも刺激してあげられたらうれしいですね。



受け入れるハマダ写真の濱田加代子さん

ある答えにたどり着く学習ではなく、肌で感じ自ら答えを創造する学習。それぞれの感性で感じ取った一つひとつの体験を、今後どう生かしていくのか。4人の成長が楽しみです。

## 体験を自分の中で消化し 相手に伝える練習

社会人として活躍するには、いいアイデアを思い付くだけでは足りません。それをいかに表現し、相手の心に響かせるか。いわゆるプレゼンテーション能力が問われるのです。

また、自分が得たノウハウを先輩(後任)に引き継ぐことも求められます。

### 職場体験発表会

職場体験学習はただ単に職場で活動するだけの学習ではありません

ん。事前に興味のある職業について調べ、最後にまとめの学習もしています。

大栄中学校ではまとめ学習で発表会を行いました。

この日は、1・2年生250人が体育館に集合。事前に聞きたい発表の希望をとり、41個のグループに分かれて、発表が始まりました。模造紙に体験したことをまとめて発表するのが基本形。紙芝居や模型を使って発表するグループもあります。

東日観光(花崎町)で職場体験を



営業役と取引相手役に見立てて名刺交換を演習



1・2年生が一緒になり活発に意見交換

した小倉さんたちは、営業の名刺交換について身振り手振りを交えながら「自分の低い人から渡すのが基本。先にもらった場合は「申し遅れましたが」と一言添えること」と説明しました。

ほかに、ベッドメイキングの体験を、ミニチュアのベッドとシートを使って説明するグループなども。分かりやすく説明するためにそれぞれが工夫を凝らして発表しました。

### 先輩から後輩へ 体験を伝える

実際に職場に出て体験学習を行ったのは2年生のみでしたが、今回得た体験を、生徒同士のコミュニケーションによって1年生に引

き継ぐことができました。同じ年ごろの先輩から伝えられた体験談は、教科書などでは得られない情報をもたらし、より強いインパクトを持って後輩に刺激を与えたことでしょう。また、1年生から2年生へも発表の評価カードが渡され、それを2年生が今後に生かす。この好循環が生徒間での主体的な学習活動につながるのです。

「どの職場でもあいさつ・礼儀が大切。普段見えづらい仕事にふれ、みんなの将来に少しでもいいきっかけを与えられれば」と先生からまとめの講話が。生徒たちに「社会人としての常識やマナーを体験し身に付け、将来に生かして欲しい」という熱いエールが送られました。



写真を交えて  
分かりやすく



手作りのミニチュアでベッドメイキングを披露

### 1年生に 聞いてみました



左から五木田さん、向原さん、所さん

発表を聞いてどうでしたか

五木田さん 2日間仕事をまっとうして、すごいと思いました

来年は皆さんの番ですね

向原さん 保育園で子どもと接するのが楽しみです

2年生の発表についてアドバイスはありますか

所さん もっと大きく分かりやすい声で。チームワークのよさを感じられるといいですね

では、ここがよかったという点は

五木田さん 紙芝居やロールプレイを取り入れて、分かりやすく工夫できていたところです

職場体験学習についてどう思いますか

向原さん 実際に働き、お金の大切さを知るよい機会だと思います

所さん 将来の仕事について考えるチャンスだと思います

# 自分の可能性を広げる いろいろな職場を体験



サラダの盛り付けは慎重に

市内や近隣市町村の事業所を訪れた小中学生たち。普段よく訪れるお店を選んだ人、趣味の世界を広げてみたかった人、裏方はどんなことをしているのか興味がわいた人…。それぞれの思いを胸に、ドキドキ、ワクワクの職場体験となりました。彼らはどのようなことを感じたのでしょうか。

## 小学生Photo&Voice&Voice

### 興味

成田市役所広報課

今泉 貴明さん

千ヶ崎 遥さん(吾妻小学校6年)

——職場体験を終えて率直にどう思いますか。

**今泉さん** 「現場で取材することの大変さや、読む人に伝えることの難しさが分かりました。この経験を今後に生かしたいです」

**千ヶ崎さん** 「一眼レフカメラの使い方を覚えてよかった。お父さんもカメラが好きなので、今度は一緒に写真を撮りに行きたいです」

——次に写真を撮るとしたら、どんなものを撮りたいですか。

**今泉さん** 「カメラマンの撮影現場など、何かに真剣に取り組んでいる人を撮ってみたいです」

**千ヶ崎さん** 「動物かな。家で金魚を飼っているの、水槽越しに無邪気に泳ぐ姿を撮りたいです」



消防署に訪問取材



千ヶ崎さんと今泉さん



広報課オフィスで編集作業を体験



阿部さんと日高さん

成田市役所広報課

阿部 未来さん

日高 順一さん(橋賀台小学校6年)

### 将来

——職場体験で市役所の広報課を選んだ理由を教えてください。

**阿部さん** 「もともとカメラに興味があったからです」

**日高さん** 「広報紙ってどう作っているのか知りたかったからです」

——職場体験を終えて、どう思いますか。

**阿部さん** 「将来はカメラに関係する仕事に就いてみたいと思いました。カメラマンなどにあこがれます」

**日高さん** 「いろいろな体験ができてよかった。今回学んだことを将来の仕事に生かしたいです」

# 中学生Photo&Voice&Voice



商品に値段を付ける

## 沢田フラワー(土屋)

常世田 真美さん(中台中学校2年)

経験

お花の品出し・小束作り、フラワーアレンジメント制作、店内の清掃、値段打ち、接客などたくさんの経験をさせていただきました。

フラワーアレンジメントでは、リボン作りに苦労しましたが満足いく作品ができました。花を売るだけではなく、朝早くから都内での仕入れ、商品の作製・展示、電話注文の受け付けなど、いろいろな仕事があり商売が成り立っていることが分かりました。

挨拶

## エクセルホテル東急(大山)

榊原 和也さん(成田中学校2年)

ホテルってどんな仕事をするんだろう、と興味があり同じクラスの友達と一緒に選びました。

一つひとつの部屋ごとに清掃、枕カバー・シーツ・タオルの交換などを順番に行いました。廊下などで宿泊客に会った場合は、従業員として、会釈でもいいので必ずあいさつすることが大切です。

普段見えない裏方の仕事は、大変だなというのが率直な気持ち。家の部屋の掃除もあまりしないので、2日間よい勉強になりました。



客室のシーツ交換



パソコン画面を見ながら操作

## ヤマダ電機(公津の杜)

飯島 崇弘さん(下総中学校2年)

コツ

電化製品の修理に興味があることと、父が電機関係の仕事に就いていることから、迷わず電機屋さんを選びました。

2日間の主な仕事は商品の清掃・陳列・運搬です。いろいろな仕事を経験できたこと、関係者しか入れない2階に入ることができたことがよかったです。冷蔵庫など大きい電化製品は運搬に注意が必要です。コツをつかむのに時間がかかりましたが、最後には上手に運ぶことができました。

高校で専門知識と体力をつけて、将来は電機関係の仕事に就きたいと思っています。

意識

## 岩澤自動車(三里塚光ヶ丘)

日橋 雪馬さん(遠山中学校2年)

仕事の中で印象に残っているのは板金塗装。不要になったボンネットをへこませ、パテで埋め込み塗装をしてきれいに仕上げました。満足いく出来栄で達成感を味わえました。

職場体験を通して驚いたことは、整備士の仕事の速さとプロ意識です。「1台半日で終わる仕事に1日かけてしまうより、2台分やった方がもうかる」と。

今回の体験を自分の進路に役立てたいと思っています。



工具を使いこなす

社会に羽ばたく

子どもたちの姿を見つめて

職場に身を置き、学校生活とは異なる世界の現実を目にした子どもたち。社会の一員として働いた経験は、どのようにその後の学校生活や彼らの意識に反映されるのでしょうか。職場体験学習について、さまざまな立場からその展開を見つめる皆さんにお話を伺いました。



辻 栄一さん

独立行政法人雇用・能力開発機構千葉職業能力開発短期大学校成田校 能力開発部長

将来への視野を広げる有意義な機会に

子どもの職業観を養い、その将来への展望を開いていくことを目的に実施されている職場体験学習ですが、その教育効果をより一層引き出すには、どのような取り組みが考えられるのでしょうか。生産技術科と航空機整備科の2学科を設置し、学生の就業率の高さでも知られる千葉職業能力開発短期大学校成田校で、学生の指導などに携わる辻栄一さんに聞きました。

物にさわって 感じることの大切さ

職場体験学習を始めとするキャリア教育が重要視される背景には、パソコンやインターネットの

普及に伴って、子どもたちが物に直接ふれずに多くの知識を得るようになった現実への危惧があるのではないのでしょうか。

パソコンやテレビの画面を通して見る世界と、現実との間には大きな違いがありますから、そのギャップを埋める役割への期待は大きいと思います。

インターンシップと 職場体験学習

雇用者と被雇用者との意識のズレにより離職率が増加するという就業のミスマッチを解消するため、学生が就職内定先などの企業で仕事を体験するインターンシップ制度が多く企業の導入されています。当校でも就職活動に前後

して学生たちが参加していますが、職場体験学習もこれと類似の効果も期待できる制度といえるでしょう。

ただ、就職を前提として実施されるインターンシップと異なり、職場体験学習は、義務教育の段階で実施されるところにその特徴があると思います。子どもたちが長い目で将来への見通しを立てるきっかけになるという点でも、重要な意味を持つのではないのでしょうか。

職場体験をきっかけに 興味の幅を広げてほしい

職業能力開発短期大学校では、子ども向けの講演である「シゴト教室」や本棚などを手作りする「ものづくり教室」を実施するなど、子どもたちに仕事や物作りの楽しさを知ってもらう場を提供しています。

職場体験学習での経験を一過性のものにしないためにも、地域のこういった催しに積極的に参加して、社会に出て働く自分たちの未来について考える時間を持つてほしいですね。その中で、子どもたちには自らの興味の幅を広げ、将来についてさまざまな可能性を見出してもらいたいと思います。

保護者の声

● 仕事を体験したことで、社会に対する興味の幅が広がったようです。子どもと会話する際の話題が増えました

● 子どもの意識にとれだけの変化があったのかまだ分かりませんが、将来に向かつて身に付いたことは少なくともあったと思います

● 体験した仕事に就くには何を勉強したらよいかと聞かれました。進路について具体的に考える機会になったようです

児童生徒の受け入れに ご協力をお願いします

来年度以降も、市内の小中学校では職場体験学習の実施を予定しています。

職場体験には、受け入れ先となる事業所の協力が不可欠です。事業者の皆さんにはぜひ児童生徒の受け入れについて、ご協力をお願いします。

※くわしくは教育指導課(☎

20-115802)へ。

## 職場体験学習担当教員から

### 仕事を通じて身に付いた自信を 将来につないで

職場体験を終えて、生徒たちからは「働くことは大変」「とても疲れた」といった声が多く上がっていました。少子化の影響で一人の子どもに使われるお金が増えている中、働くことやお金を稼ぐことの重みを実感できる貴重な機会だったと思います。生徒たちにとって、目にするもの全てが新鮮だったに違いない経験を、すぐに普段の生活へ反映させることは難しいと思います。事業所の方にほめられたことや、仕事上の失敗を克服できたことなど、それぞれの職場で得た小さな自信を、将来設計の構築に役立ててほしいですね。



遠山中学校  
小田川 倫之先生

### 自分を向上させるきっかけにしてほしい



下総中学校  
三橋 隆先生

職場体験学習の実施前に比べると、学校生活の中で子どもたちが自発的にあいさつするようになったり、掃除などに熱心に取り組むようになったことが印象的でした。職場の一員として社会と接することで、礼儀やマナーの大切さを感じてくれたのではないのでしょうか。職場体験学習では、普段の学校生活ではふれ合うことのない人たちとの接触があり、社会に出てからの人間関係を実感できる貴重な機会になったと思います。生徒たちは仕事を通してさまざまな経験をしたはずですが、その一つひとつを自分を向上させるきっかけにしてほしいと思います。

### 学校生活では知り得ない 生徒の意外な一面も

多くの事業所に生徒たちを受け入れていただき、仕事に対する姿勢などについてお話を聞かせていただきました。その中で、普段の学校生活ではうかがえないようなリーダーシップを発揮した生徒や、失敗から立ち直って最後まで仕事をやり遂げた生徒についての報告などがあり、彼らを送り出す立場にいたわたしたちも多くの発見がありました。3日間という短い期間の職場体験でしたが、それぞれが感じたことについて生徒たちが話し合い、いろいろな仕事が生徒を支えているという事実を学べたことは、生徒たちの将来にとって大きな意味があったと思います。



大栄中学校  
蒲原 優子先生

#### 特集を終えて

今回の職場体験学習では広報課にも小学生が訪れ、取材の要領などを学習しました。カメラの使い方や広報紙を編集するプロセスについて熱心に耳を傾ける姿勢もさることながら、取材を拒否されたときの対応や広報紙の発行部数についてなど、わたしたちに向けられた質問内容から、彼らの社会に対する関心の高さを実感させられました。このような機会を通して、子どもたちが何を学んだかについてわたしたちはうかがい知ることができません。しかし、学校や家庭のような過ごし慣れた世界から足を踏み出したことで、彼らの社会に対する視野が広がり、将来を切り開く手掛かりが増えたことは間違いないと思います。

職場体験学習で何事にも熱意を持って取り組んだそんな彼らと、いつか同じ社会人として一緒に仕事をする日が楽しみであり、待ち遠しくもあります。